綴りの輪 58

田中正造没後100年
足尾銅山鉱毒問題に田中正造と共に戦った潮田千勢子（1844―1903）

小塩立吉

潮田千勢子は幕末の1844（弘化元）年9月21日に、現飯田市江戸町3丁目飯田藩藩医丸山龍眠の2女であり、藩邸で産声を上げた。注1 長じて1867（慶応4）年に重臣で現江戸浜町の潮田健次郎に嫁し三男二女を設けた。日露戦争講和時の陸奥宗光外相もこの年に生まれている。

幕末期の武家の凋落は激しく、実家が宣教師の初期の教会として貸し出され基督教に接近した事情ならびに1881（明治14）年、M・C・ハリスより洗礼を受けたことを、仙台の雑誌『道の栞』に明治30年に寄稿し詳述している。注2 舅藻苅がこの年に亡くなり、翌年、夫健次郎が病没し長久寺に葬られたが墓石に戒名は無く入信していたと思われる。多くの文献では1883（明治15）年にJ・ソーパー宣教師から受洗としている。注3 1884（明治17）年に長男傳五郎を15歳で上京させ、次男功も上京させた。数え年40歳の千勢子は、人生後半を東京で暮らそうと決心し、一男二女を連れて東京に出た。千勢子は飯田藩の藩邸に生まれたとされ、鉄道もない明治初期において、東京に出られる立場にあったと考えられる。

麹町5番町に落ち着いた千勢子は、3歳の末娘を櫻井女学校附属幼稚園に入れ自らは保母科に入学し、卒業後は母校で教えた。校長は矢嶋楫子（本名・かつ子）であり後に日本基督教婦人矯風会会頭を長く務めた方であり、正に運命的な出会いとなり同会設立時から名を連ね活動を共にし、また会頭選を争うこととなるのである。

基督教信仰に基づく米国発祥の婦人禁酒運動は、White Ribbon（白標）と呼ばれる運動である。日本では廃娼運動や一夫一婦制などを包含する日本基督教婦人矯風会と言う名称として1886（明治19）年に発足し、その発足に名を連ねた。櫻井女学校を終えると1889（明治22）年横濱聖経女学院に入学、儒教や仏教では卑下されていた女性から決別し、生き抜くための知識と技術を得ようとした。3年で卒業すると伝道と矯風会事業に傾注し、慈愛館の創立にも寄与、修身職業英和学校、女子授産所を創立した。別に白標貯蓄部も設立しその一員であった。1897（明治30）年には東京婦人矯風会の会頭に就任した。

千勢子は、東京禁酒会幹部としてJ.Soperらと共に名を連ねていた。ハワイ総領事を務めた安藤太郎は酒豪であったが、文子夫人が進物の酒樽を壊し流させたのを機に、太郎は禁酒を誓った。帰日すると安藤太郎は1890（明治23）年東京禁酒会会長となった。

1887（明治20）年代になり足尾銅山の鉱毒問題が顕在化し、これに目を向けることとなる。田中正造の案内で渡良瀬川鉱毒地を歩き、東京で講演会を開催し、鉱毒地救済婦人会を結成会長に推されている。募金活動を行い1902（明治35）年には、凍てつく渡良瀬川流域激甚地に看護婦を伴い慈善訪問に向かい慰問品を届けている。

渡良瀬川鉱毒地慰問の潮田千勢子ら
中列左より3人目

長男傳五郎没後の千勢子
襟に白標が見える

当時の毎日新聞の木下尚江は、松本の人で鉱毒問題を紙上に訴えたことで知られる。千勢子は、拘留中の黒沢西蔵に聖書を差し入れた事が知られており、氏は日本酪農の父と言われ後に旧雪印乳業（株）社長となった方である。

長男傳五郎は、東京大学工学部を終え米国に留学し数少ない電気技師として芝浦製作所の創立に参画、都電の設計のほか伊那電の設計にも関係したと言われている。嘱望されていた長男を1902（明治35）年に35歳で失った。失意の千勢子は、黒繻子の衣を縫い気丈夫に婦人矯風会の活動に打ち込んだ。

そして明くる1903（明治36）年4月に婦人矯風会の全国会頭選挙に当選する。しかし、すでに胃癌が悪化しており7月4日に逝去した。葬儀には田中正造は涙ながらに弔辞を述べ、安藤太郎、木下尚江らの弔辞も続いた。東京での葬儀に留まらず、藤岡町寿福寺で追悼会が仏式、基督教式両方で行われ、地元農民は千勢子の鉱毒地への救済活動に感謝し寄付を募り慰霊碑を建立している。

身内に関わることで恐縮ですが、叔父小塩完次は、検定で早稲田大学を27歳で卒業する。1925（大正14）年から日本禁酒同盟の活動に本格的に挺身することとなるが、安藤太郎、根本正ら当時の幹部、潮田千勢子、沢柳政太郎などの長野県出身の偉人の足跡を慕い講演の際に度々引用していた。前述の黒沢西蔵は何度か小塩邸を訪れている。

さらに時は移り、傳五郎の長男勢吉は慶応工学部教授に、江次は法学部教授から1947―56（昭和22～31）年の間慶応大学塾長を歴任した。そして矯風会新会館建設1958（昭和33）年に当たっては募金運動の発起人に名を連ね世代を超える貢献の姿が見える。

日本禁酒同盟断酒修養会では毎年正月に都立青山霊園にある安藤太郎、根本正、伊藤一の禁酒運動三先覚者に加え潮田千勢子の墓参を行っている。

◇　◇

＊こしお　たつきち
1936（昭和11）年生まれ。飯田市出身。一般財団法人日本禁酒同盟事務局長。東京都日野市在住。

足利市岩崎邸の慰霊碑

主要参考文献
1）注1＝生年月日＝弘化元年9月21日潮田家除籍謄本による。没年は誕生日前であり満38歳余となる。
2）注2＝『公同の教会をめざして』飯田市吾妻町教会発行　1997・3　第二章において、千勢子が仙台の雑誌『道の栞』九七年第四巻第十二号（明治30）年に寄稿しており、千勢子実家丸山家が初期の仮教会として貸し出されていた事情を詳述し、さらに1881年「明治一四年信州飯田に於てエム・シー・ハリス氏より洗礼を受けたり。」と、また「翌年ハリス氏夫妻にて来たりたり。初めての西洋婦人なれば来集する者頗る多かりき。」と採録されている。その場所が大火前の江戸町前島医院であったことも図により明らかにされている。
3）注3＝『婦人新報』日本基督教婦人矯風会会報誌　8号、74号、75号。
75号には千勢子が病床で口述し白井俊一が聞き取り葬儀の際の経歴によれば、弘化2年9月9日生まれとし、1883（明治15）年にJ・ソーパル宣教師から受洗した。ときれ、以後多くの文献に引用されている。
3）J・ソーパー、M・C・ハリス宣教師、青山学院HPほか。米国から1873年に名来日した初のメソジスト派の宣教師。J・ソーパーは、青山学院大学の前身から草創期に教鞭を執り、主に関東に伝道に尽くしたほか、青山学院創立者津田仙に洗礼をしたことで知られる。M・C・ハリスは函館の通称ハリス教会の創建で知られる。
4）J・ソーパー（Julius Soper）、M・C・ハリス（Merriman Colbert Harris）、ハリス夫人（Flora Best Harris）
英文綴りは、函館教会（通称ハリス教会）2013・7・25松本紳一郎牧師からメールによる。
5）日本基督教団銀座教会九十年史　1981。
6）『目で見る100年史』日本キリスト教婦人矯風会　1988・5・18
7）『近代日本女性史　8巻』潮田千勢子の章　阿部玲子著　集英社S56・5・23の執筆に際し小塩完次は資料を提供した。
8）『矢嶋楫子傳』徳富蘇峰監修　久布白落実執筆　1935（昭和10）4・5不二屋書房　小塩完次資料館所蔵。
9）『信濃のおんな』もろさわようこ　1969・5・31（株）未来社　潮田千勢子の章。
10）『足尾銅山鉱毒事件と女性運動』　山田和子　大正大学研究紀要　第97輯
11）飯田市立中央図書館　丸山・潮田両家除籍謄本を始め、多数の文献資料が所蔵されている。